

# のびやかWell-being保育園 自己評価

		2024年度		2023年度	
		現在の取組及び状況	判定	現在の取組及び状況	判定
		今後の改善計画・目標		今後の改善計画・目標	
<b>保育内容</b>					
<b>全体的な計画の作成</b>					
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	全体的な計画は、保育の方針や目標に基づいて作成している。	A	全体的な計画は、保育の方針や目標に基づいて作成している。	A
<b>環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開</b>					
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	子どもが安心して生活できる環境設定に努めている。	A	子どもが安全で安心して生活できる環境構成に努めている。ヒヤリハット事例を職員間で共通理解し、日々の保育を見直している。	A
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	子どもの様子を伝える機会（職員会議）を設け、園全体での共通理解に努めている。	A	保育士間の会話の中で子どもの育ちや手立てが必要だと思われることに関して、個々に応じた保育に心掛けてきた。	A
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	子どもが生活しやすい環境設定に努め、出来たことは褒める保育をしながら、一人ひとりに合わせた援助に努めている。	A	子どもの出来るようになった姿を認めたり、一人一人の育ち合った援助をした。また、生活習慣に関しては家庭との連携を大切にしている。	A
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	玩具の入れ替えや環境の再設定など、子の様子・現状に合わせた環境づくりの中で保育を展開できるように努めている。	A	子どもの出来るようになった姿を認めたり、一人一人の育ち合った援助をした。また、生活習慣に関しては家庭との連携を大切にしている。	A
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	スキンシップをとり、家庭との連携を密にし、安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	A	家庭との連携を密にし、一人一人にあったかわりをして、安心して過ごせるように配慮している。また、安全に探索行動が楽しめる環境構成を行っている。	A
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	自分でやりたい気持ちや出来た達成感を大切に、保育者との丁寧な関わりの中で、生活習慣が身につくよう努めている。	A	自我の育ちを受け止め、自分のやりたい気持ちを大切に、保育士の丁寧なかわりから基本的な生活習慣が身につくよう配慮している。	A
7	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	異年齢での交流を大切にし、お互いの姿に刺激し合いながら、個の成長が促せるよう努めている。	A	子どもが安心して園で生活できるように全職員で受け止めてきた。しかしながら、泣いてしまう子や不安な表情を見せる子がいたため、丁寧なかわりをしていきたい。	B
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	関わりや環境構成を整えることで、安心して過ごせるように努めている。	B	その子にあったかわりや環境構成を整えることで、安心して過ごせるようにしていた。また、全園機関への相談なども行ってきた。	A
9	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	その日の在園に合わせて、朝夕保育時のおもちゃの入れ替えや環境設定をしながら、安心して生活できる環境の中で、異年齢が交わって過ごせるように努めている。	A	朝保育、夕保育では異年齢が交わって保育しているが、危険や怪我の無いよう配慮してきた。職員間で連携を密にし、子供の体調把握等もしっかり行っている。	B
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりで配慮している。	個人面談を実施し、必要に応じて追加の面談も行いながら、保護者と共に子どもの成長を見届けられるよう努めている。	A	年3回の個人面談を行い、家庭での姿を聞いたり、育てたい姿を伝えたり、保護者と同じ気持ちで子供の成長を喜び合うことが出来た。	A
<b>健康管理</b>					
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	受け入れの際、保護者から用紙を聞いたり、視診・触診をしたりして、子どもの体調管理に努めている。	A	朝の受け入れ時には必ず保護者から体調の様子を聞き、受け入れを行った。子供の急な体調変化に気付けるよう、職員間で連携した。	A
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	年に2回ずつ実施し、結果を保護者に伝えたり、実態把握に努めている。	A	年2回各検診を行った。検診の結果は保護者に伝えた。	A
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	現在アレルギー対応の子は居ないが、マニュアルを共有し、安全管理に努めている。	A	園児にアレルギー対応の子はいないが、職員間でアレルギーマニュアルを見直し、	
<b>食事</b>					
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	野菜の栽培や収穫、季節の野菜を使ったクッキングを計画し、楽しめるように努めている。	A	夏野菜の収穫やクッキングを通して食に対する興味関心を持っていくようにしてきた。	B
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	行事に合わせてメニューを工夫し、子ども達が食事の時間を楽しく過ごせるよう、努めている。	A	給食職員のアイデアで、行事食やお楽しみメニューなどを行っている。また、職員間で連携を図り、クッキングを行った。	A
<b>子育て支援</b>					
<b>家庭との緊密な連携</b>					
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	送迎時の保護者とのコミュニケーションを大切に、その日の子どもの体調や様子を共有した。必要な学年や個に応じて、面談を実施し、情報共有に努めている。	A	朝の受け入れ時や帰りの引き渡しの際に園での様子を伝えたり、連絡ノート、おうちえん等を利用して、保護者と連絡を取り合った。	A
<b>保護者等の支援</b>					
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	保護者とのコミュニケーションを大切に、相談しやすい関係性づくりに努めている。	A	どの職員も保護者に積極的に話し合い、相談しやすい雰囲気作りを行ってきた。	A
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	登園児の視診を徹底し、子どもの変化に気付けるよう努めている。	A	全園児に視診を欠かさず行い、子供の小さな変化に気付けるようにしてきた。	A
<b>保育の質の向上</b>					
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	日誌の記入や職員会議の実施など、日々の保育を振り返る機会を設け、全職員で共有していった。	B	自己評価やセルフチェックを行い、保育の振り返りをした。保育会議で話し合いをすることで、さらなる気づきにつなげていった。	B